

(株) 芦ノ牧ホテルを拠点とする被災者支援に関わる報告

平成 23 (2011) 年 4 月 25 日

(株) 芦ノ牧ホテル 代表取締役会長

小野 剛

概要

本中間報告は、会津芦ノ牧ホテルが展開している東日本大震災の被災者支援に関わる活動内容をまとめたものである。

国内観測史上最大の地震が、大津波による被害と東京電力東北第 1 原子力発電所の事故を引き起こし、放射性物質が拡散、福島県を中心に住民の不安や風評被害への懸念が強まっている。会津地方は、福島県内では唯一、地震と原発事故の影響を直接には受けていない地域である。芦ノ牧ホテルは会津若松市の最南部に位置し、問題の原発からは直線距離にしてちょうど 100 キロメートル真西に当たる。

(株) 芦ノ牧ホテルは、2011 年 3 月 11 日の地震発生から 3 日後の 3 月 14 日に被災者の無償受け入れを臨時株主総会において決議した。福島テレビや仙台 FM のご協力により無償受け入れ開始の事実を報じたところ、早速お応えいただき、3 月 20 日の 11 名様をはじめとして、4 月 26 日までに 171 名の被災者受け入れを行った(観光庁による補助金決定後の受け入れ、および、途中ご帰宅された方々を含む)。

芦ノ牧ホテルが無償受け入れを決議した時点では、東北地方太平洋側全域においてライフラインがとまり、生活物資の供給は全面的に停止していた。「ホテル内に米は 300kg、約 15 日分しか残っていない」という状況だった。当ホテル会長の小野剛は、母校武蔵大学同窓会や出身である大分県の県人会に連絡をとり、物資支援のご協力を要請した。その後、驚くべき展開をみせ、3 月 19 日には武蔵大学同窓会新潟支部から米 600kg が、また、大分県中津市少年野球連盟ご有志の方々からは米 1.3 トンが届けられた。その後も、支援金を含め、途切れることなく続いた企業・団体・個人の方々よりのご支援は 4 月中旬までに総計 100 件を超えた。このような各方面からの多大なご支援なくしては、芦ノ牧ホテルの被災者支援活動は成り立たなかった。この場を借りて厚くお礼申しあげたい。

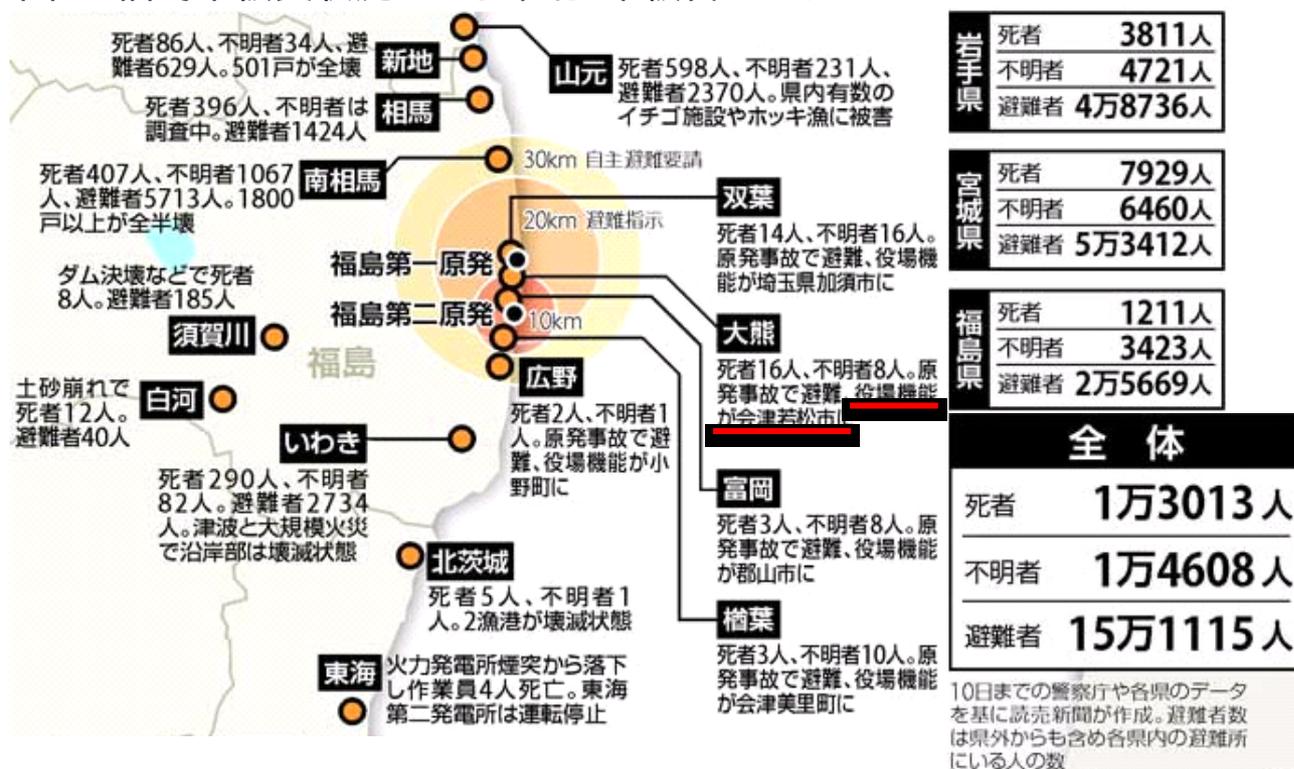
当ホテルは支援活動を福島県域を超えて実施している。3 月 27 日には、岩手県陸前高田市における食糧不足の窮状を武蔵大学 OG の方より伝え聞き、米 300kg と水、カップ麺等を高田市に運び入れた。このように地震発生後において、会津芦ノ牧ホテルは被災者にとっての避難所として、また被災地東北への物資供給のハブとして機能してきた。

以下では、上にまとめた内容をより詳細に報告する。

1 震災被害の状況

あらためて福島県を中心に震災被害の状況を見ておこう。度重なる大きな余震の影響もあり、東北地方に住む人々の生活は、今もなお不安定な状態が続いている。そこに原発問題が追い打ちをかけ、福島県をはじめとする地域の方々の生命と財産が脅かされている。政府が指定した避難地域内の住民は居住地からの避難・移転を余儀なくされている。図.1 は警察庁や全国各県のデータを元に読売新聞社が作成したものである（4月10日現在）。死者・行方不明者がそれぞれ1万人を大きく超え、避難者数が15万人に及ぶことから震災被害がきわめて大きな規模に上ったことがあらためて確認できる。

図.1 福島県被災状況および東北3県被害データ



4/10現在YOMIURI ONLINEより

2 震災被災者受け入れの経緯と受け入れ実績

武蔵大学関係者が経営する（株）芦ノ牧ホテル（会長小野剛、社長鈴木淳）では、2011年3月11日の地震発生から数えて3日後の3月14日に被災者の無償受け入れを臨時株主総会において決議した。その後、福島テレビや仙台FMのご協力により無償受け入れ開始の事実を報じていただいたところ、さっそくお応えをいただき、3月20日には福島県郡山市より第一陣として11名様にご入館いただいた。その時点では東北地方太平洋側全域においてライフラインがとまり、生活物資の供給が全面的に停止しているという状況であった。

表.1 は、政府が震災後に行った対策と発表された項目を時系列でまとめたものである。芦ノ牧ホテルは、震災による被害が明らかになると並行して、支援策を打ち立

て、対応してきた。同表に当ホテルで受け入れた避難者数を併載した。現在までに滞在いただいた被災者数は、有償・補助金決定後の受け入れ、および、途中、ご帰宅された方々を含めて、4月26日までの累計で171名である。

表.1 政府による震災・原発事故対策発表と芦ノ牧ホテルの被災者受け入れ活動

日時	対策と発表	
2011年3月11日	14時46分 東北地方太平洋沖大震災発生	(株)芦ノ牧ホテル 被災者受け入れ開始 受入日 3/20~31 郡山市 11名 南相馬市 鹿島区 3名 " 原町区 5名 相馬市 中村字 5名 4/1~10 郡山市 70名 4/8~ 榎葉町 77名 計147名
"	15時14分 首相官邸緊急対策本部設置	
3月13日	21時38分 電力需給対策本部会議の開催	
"	17時58分 全津波注意報解除	
3月14日	東京電力による計画停電の開始	
3月16日	11時00分 原子力施設への影響に伴う避難勧告発表	
3月18日	東京消防庁ハイパーレスキュー隊による3号機への放水作業開始	
3月21日	『原乳、ホウレンソウ』等の出荷制限発表	
3月23日	18時20分 東京都水道局金町浄水場より放射性ヨウ素検出	
4月9日	16時00分 余震の活動状況及び今後の見通し発表	
4月12日	福島第一原発事故の暫定評価レベル7に	
4月14日	栃木県産『カキナ』出荷制限解除	

出典:平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震(東日本大震災について)、4/14掲載資料。首相官邸HPより。

3月25日には、観光庁が災害救助法に基づく被災者支援の一環として、指定するホテルや旅館などを避難場所として活用し、移動費や宿泊費を全額補助すると発表した。こうして、県の災害対策本部のご要請により滞在していただく方々については、1泊当たりでみて経費に若干欠ける程度の宿泊補助費相当額を頂戴できる環境を整えていただいた。今後は、福島県榎葉町などの地域を中心にさらに受け入れが拡大する可能性がある。なお、同県大熊町の役場機能が4月5日に会津若松市の分庁舎へ移され、多くの大熊町民が会津若松市周辺施設に避難されている。このことから、今後も会津地方への住民避難は増加するものと予想される。

3 支援物資のご提供

震災発生後、芦ノ牧ホテルは多くの支援者の方々に支えられて、現在まで被災者に対する支援環境を維持してきた。

芦ノ牧ホテルが無償受け入れを決議した段階で、会津在住の責任者である鈴木淳社長より「ホテル内に米は300kg、約15日分しか残っていない」との報告を受けた。会長の小野剛は、母校武蔵大学の同窓会理事で

ある小倉^{たかし}宇思氏に連絡を取り、被災者支援にご協力いただけないかと相談申し上げた。

表.2 芦ノ牧ホテルの被災者受け入れ実績 (4/25現在)

受入日	受入地域	人数	受け入れの形態
3月20日~31日	郡山市	5名	無償受け入れ
	郡山市	6名(内.子供3)	
	南相馬市 鹿島区	3名	
	南相馬市 原町区	5名(内.子供3)	
	相馬市 中村字	5名(内.子供3)	
4月1日~10日	郡山	70名	有料受け入れ
4月8日~	榎葉町	77名(内.子供15)	政府の被災者支援プログラムによる受け入れ
		合計 171名	

その後の展開は驚くべきものであった。小倉氏に連絡した3日後の3月19日には、武蔵大学同窓会新潟支部がご用意された米600kgを大学OB自らが危険を冒して、陸路県境を越え、福島・会津まで搬入された。また、3月26日には、同じく協力要請の連絡をとらせていただいていた（小野剛の出身県である）大分県人会の計らいで、中津市少年野球連盟ご有志の方々より米1.3トンを日本海側ルートにて運び入れていただいた。3月19日にはじまってより、物資支援の輪は途切れることなく拡大をつづけ、総計100件を超える企業・団体・個人の方々よりのご支援・ご協力をいただいて、今4月中旬にいたっている。

4 岩手県陸前高田市への支援物資搬送

芦ノ牧ホテルは被災者支援活動を福島県域を越えて実施している。岩手県陸前高田市における食糧不足の窮状を武蔵大学OGの宇津野様より伝え聞き、3月27日には、その時点までには当ホテルに潤沢に蓄えられていた支援物資のうちから米300kgと水、カップ麺等を、社長の鈴木淳自らが社有ワゴン車のハンドルを取り、陸前高田市まで運び入れた。岩手県一関市からは宇津野様の道案内をいただいての、およそ5時間の道のりであった。

図.2は鈴木社長が陸前高田市に支援物資を搬送したときに撮影した写真である。鈴木社長は『目を覆うような惨状に人生観が一変するような思いであった』と述懐している。

図.2 支援物資配送



3/27岩手県被災地支援物資配送レポート(株)芦ノ牧ホテルより

このように地震発生後の1か月余の間、会津芦ノ牧ホテルは、被災者にとっての避難所として、同時にまた、被災地東北への物資供給のハブとして機能してきた。

5 御支援者の一覧（敬称略）

芦ノ牧ホテルを拠点とする震災者支援活動にご協力いただいた方々のお名前を、深い謝意とともに以下に掲載させていただきます。

チーム LOVE 大分（秋吉貢次）/アサヒ東北支社/福島支店長 吉田和弘/福島県災害対策本部/喜多真一/キューピー株式会社 俵吉彦/川井貴志/武蔵大学同窓会新潟支部 支部長 滝澤健一郎/(株)新潟農園 営業部長 松浦恵一/(有)大分乾物/別府竹製品協同組合 清水貴之/(有)畑辺産業 畑辺和子/池上宏司/(株)大分センチュリーホテル/西武ライオンズ/向オーキッド(株)/(株)アンフィニプロジェクト小幡/蟹江賢吾/大竹/工藤正子/白杵正和/今市浩太郎/岩田順子/安藤保子/松本邦男/安達一恵/小野美代子/松本ゆかり/佐藤/釣具センターえびすや/(医)渡辺内科 渡辺金治/後藤公美子/藤田早苗/藤崎洋介/押尾三千代/(有)キムラヤ画材店 木村太郎/鎌田祥子/小幡敏之/安部友子/赤田和哉/中園敏晴/梶原京子/原田晃/伊藤高裕/小野裕二/井上歯科 井上敦子/安部淳子/高野恵/山野龍馬/槇島弘子/倉田明美/首藤孝行/(株)高橋水産/(株)やまろ渡邊/疋田泰文/ブレインウッドコーポレーション サラダ館新別府 /大久保愛深/江口博美/川野香津代/足立裕二/川井貴志/会派前進/(株)日商首藤 孝行/河野元勝/小手川内科 小手川雅彦/松永由香/鬼気照好/森田 首藤/亀井美代子/中津脳神経外科病院 島澤圭二/森田静栄・忍 /松永由香/清水 一郎 /原田晃・吉田つばみ/岡田千鶴/小泉みい子/井上祐吉/イワタ ジュンコ/セイケ ナミサダ/(株)システムファクト オチアイ セツオ/(株)ナカシマコウギョウ 従業員様/キタバルチクジイイン アラシ テルキ/(株)ナイスガイパートナーズ/コデラ チエ/タワラ ヨシヒコ

6 今後の被災者支援活動について

東京電力福島第1原子力発電所の事故は、その収束までに長い時間を要するものと懸念されている。仮に、同原発が計画通りの日程で定常状態に落ち着いたとしても、周辺住民の方々が元のお住まいにすぐにお戻りになれるというわけではないであろう。それらの方々の避難生活は、政府や東京電力の見通しに反して、短くても2年、不幸にして長引けば3～5年程度の長期にわたるのではないかと私共は推測している。

この4月より地元会津の新鶴小学校に転入し、芦ノ牧ホテルから通学をはじめた15名の学童のうちからは、7月までの4ヶ月間という当初の予定を大幅に超えて、そのまま卒業式まで在校し続ける子が出るのではないかと。当ホテル従業員一同は、そうした可能性を踏まえて、心して支援活動に取り組む必要があると考えている。

当面、芦ノ牧ホテルでは、いわき市近隣の体育館等に一時避難しておられる原発事故避難者の方々に向けて、「無料ですから、試しに2泊、心のケアとしていらっしゃって下さい。バス2台で迎えに上がります。従業員は皆会津の人、福島弁を話します。(山言葉だけれど、浜ではなく。)」とお声掛けしているところである。被災者個々人の心を襲う無力感、疎外感、将来に対する諦めといった「第2の津波」が、時間をおいて、きっとやってくるとみておかなければならない。私共の今後の挑戦は、各方面のお知恵を借りて、これを未然に防ぐ行動プランを実施していくことである。

芦ノ牧ホテルは、一度支援をはじめたからには、最後の最後まで責任を持って実行

するという理念に基づき、これまでに行ってきた被災者支援活動を今後もたゆまず実行していく覚悟である。以上述べてきた状況下にある当芦ノ牧ホテルと今後の被災者支援活動を皆様にご理解いただき、引き続きご支援賜りたい。

本報告の最後に当たって、この度の大地震に遭難され尊い命を落とされたすべての方々に対して深甚なる哀悼の意を表します。

合掌

(以上、報告文中において敬称は略させていただきました。)

出典/閲覧 Web サイト

首相官邸 HP<http://www.kantei.go.jp/>、日経テレコン 21

YOMIURI ONLINE<http://www.yomiuri.co.jp/>、産経ニュース <http://sankei.jp.msn.com/>

日経新聞朝刊 など

社 名：株式会社 芦ノ牧ホテル

代 表：代表取締役会長 小野 剛

所在地：福島県会津若松市大戸町大字芦ノ牧 796

問い合わせ先：0242-92-2206 AM9:00 ~ PM9:00

： info@gsl-ashinomakihotel.jp

URL： <http://www.gsl-ashinomakihotel.jp/index.html>